

## 原発を動かさないことが一番の原子力防災 玄海原発の稼働を直ちに止めてください

2019年12月2日

玄海町長 脇山伸太郎 様  
佐賀県知事 山口 祥義 様  
九州電力㈱代表取締役社長 池辺 和弘 様

2009年12月2日、九州電力は玄海原発3号機において日本初のプルサーマルの商業運転を強行した。プルサーマルでは普通の原子炉に猛毒物質プルトニウムを混ぜたMOX燃料を燃やす。制御棒の効きが悪くなり、事故時の放射能被害の範囲は4倍とも言われている。2006年に来佐したエドウィン・ライマン博士は「住民はモルモット」と警告した。住民はプルサーマルと原発稼働に理解も納得もしていないとの意志を、2010年12月2日から毎年この日に示してきた。

3号機は2010年12月、ヨウ素漏れ事故を起こし運転停止した。3.11東京電力福島原発事故をはさみ、7年3か月止まっていたが、玄海町長と佐賀県知事の同意を受けて、2018年3月に再稼働した。そして今、使用済み核燃料は最終処分地も決まらないままに増え続けている。

3号機からは3サイクルの運転を終えた使用済みMOX燃料が来年8月には出る。使用済みウラン燃料と同程度に冷えるまで「300年以上かかる」と国は言う。九電は「プールはコンクリートとステンレスだから壊れない」(2019年4月15日)と言うが、300年間燃料プールで安全に保管できる保証はどこにもない。その先の処理方法も何も決まっていない。さらに、プールが満杯に近いためにリラッキングを行って、現在の1.6倍の使用済み燃料を詰め込もうとしている。そうすれば危険度が一層高まる。

今や国策で進められた核燃料サイクルが破綻したことは誰の目にも明らかである。その破綻を取り繕うためにプルサーマルを続けることは許されない。

東日本大震災の後も日本中あちこちで大きな地震が起き、台風や大雨による被害も私たちの暮らしを襲う中、玄海のこの地が被災しないという保証はどこにもない。九州電力は安全に努めるというが、自然災害の前に私たちはなす術を持たない。そして、ひとたび原発が事故を起こしたら、すべての生き物と自然環境が放射能に汚染されてしまう。故郷を捨てて避難するしかない。原発が動いているために、私たちはこうした恐怖と不安をもって日々暮らさざるを得ない。

原子力災害避難計画は被ばく前提となっており、放射能から命を守ることはできない。事故を起こす前に、これ以上危険な使用済み核燃料を出さない、危険な原発を動かさないことが一番の原子力防災である。

玄海原発の稼働を強行する九州電力社長、それを容認する玄海町長と佐賀県知事の責任は非常に重い。12.2の今日、改めて要請する。

### 【要請事項】

原発は犠牲の上にしか成り立たない。  
玄海原発を一日も早く稼働停止することを求める。

あしたの命を考える会／今を生きる会／風ふくおかの会／玄海原発反対からつ事務所  
原発知っちゃう会／原発を考える鳥栖の会／さよなら玄海原発の会・久留米  
戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／脱原発電力労働者九州連絡会議／たんぽぽとりで  
怒髪天を衝く会／東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会  
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会／玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会